

「核融合アウトリーチHQが目指す社会との共創」

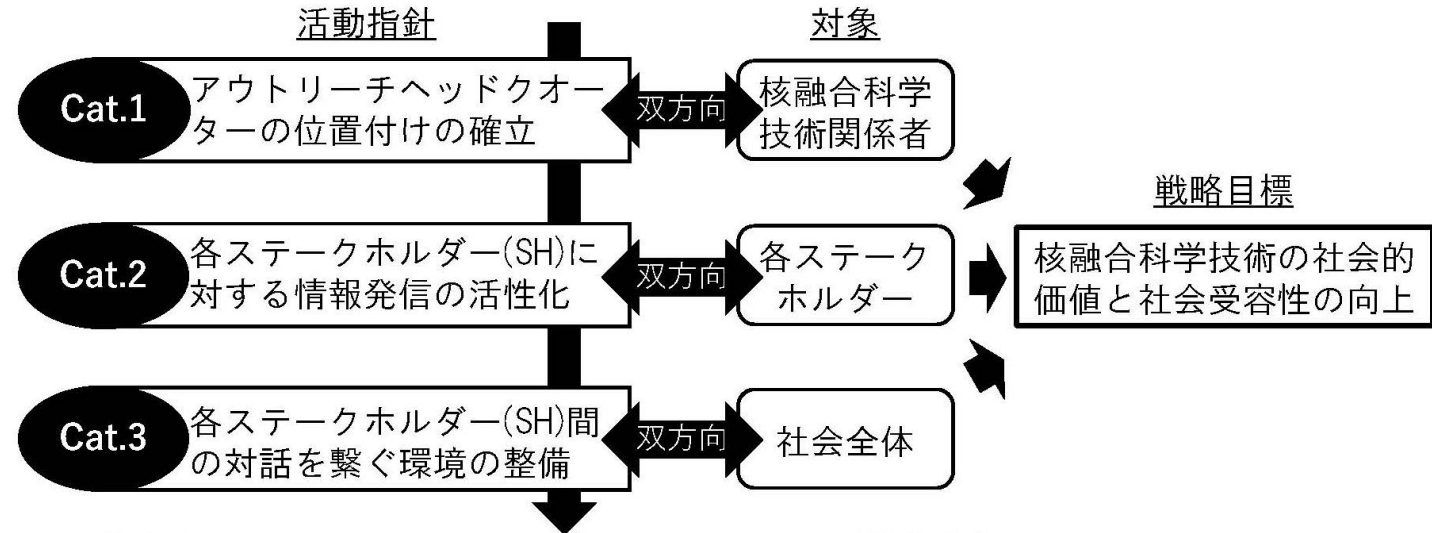
小川 雄一(自然科学研究機構)

謝辞：アウトリーチヘッドクォーター会合の参加者(文科省、QST、NIFS、大学)

戦略目標：「核融合科学技術を取り巻く幅広い層に存在するステークホルダー（SH）間の対話を可能とする環境を整備し、核融合科学技術の社会的価値と社会受容性を高めること」

アウトリーチHQの戦略目標を達成するための対象別活動指針

合同特別チームの活動フェーズ 黒：開始事項 赤：完了事項	概念設計の基本設計	概念設計	工学設計
	2015	2020頃	2025頃
12.社会連携	核融合アウトリーチ活動HQの在り方検討、設置準備、計画立案 アウトリーチ教育体制及びプログラムの検討 核融合エネルギー開発ロードマップ/原型炉設計活動に関する社会連携活動の実施	核融合アウトリーチ活動HQの設置 核融合アウトリーチ活動の推進 アウトリーチ教育の実施	原型炉建設・運転に関する社会連携活動の実施
アウトリーチ活動ヘッドクォーター(HQ)設置による活動の推進	(16)TF/特/Q/N/F/学:核融合OR活動HQの在り方の検討 →(19) (20)TF/特/Q/N/F/学:核融合アウトリーチ活動HQの設置 →(20) (20)TF/特/J/N/F/学:核融合アウトリーチ活動推進計画の立案 →(20)	(20)HQ/TF/特/Q/N/F/学:核融合アウトリーチ活動の推進(35)	→(20)HQ/TF/特/Q/N/F/学:核融合アウトリーチ活動の推進(35)



核融合アウトリーチとしてのプラットフォーム（共有基盤）化

- それぞれの組織や個人で展開している活動の情報交換、今後立ち上げるべき企画の提案などを中心に、戦略的なアウトリーチ活動の推進方策を議論。
- それぞれの企画が、どのステークホルダー/ターゲット層（小中高生、大学生、一般など）を対象としているのか、アウトプット・アウトカムとして何が期待できるのか、などについて整理しながら、対象とするターゲット層に突き刺さる“とがった”企画を目指す。
- さらにアウトプットとして、核融合アウトリーチとしてのプラットフォーム（共有基盤）化を目指す。